

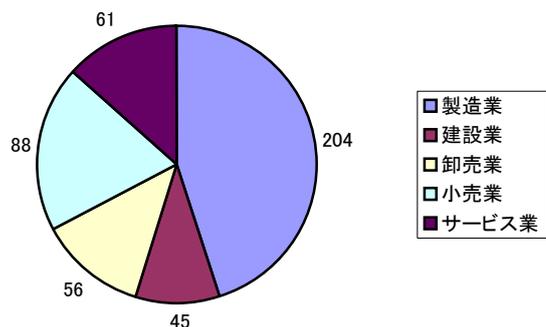
景気動向

景気は、悪化している。
先行きも、引き続き厳しさ続く。

- 調査時点 平成21年1月調査(20年12月末時点)
- 対象企業 800社
- 回答企業 454社(回答率:56.8%)
(製造業204社、建設業45社、卸売業56社、
小売業88社、サービス業61社)
- 調査時期 四半期毎(3, 6, 9, 12月末時点)

DI(Diffusion Index)値とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値。

回答企業	
製造業	204
建設業	45
卸売業	56
小売業	88
サービス業	61



<全産業>

全産業の業況DI(▲73.4)は、前回(▲56.8)に比べて16.6ポイント低下した。業種別では製造業の業況DIは▲79.4(前回比▲28.3)となり、悪化を示した。小売業、サービス業の業況DIはわずかに悪化を示し、建設業、卸売業は横ばいを示している。各業種からは、原油価格等の下落により改善が期待されるものの、受注の急速な減少や、個人消費マインドの冷え込みにより収益環境は厳しい状況が続いている等の声があり、また、雇用面で過剰人員問題についての声も数件寄せられている。3か月先見通しは製造業はわずかに改善、非製造業は横ばいを見通しているが、世界的な景気減速の影響により、先行き不透明感の強まりから厳しさを増す可能性が高い。

■全産業の主要4項目DI値

	業況	売上	採算	資金繰り
12月末時点	-73.4	-67	-68.3	-44.7
9月末時点	-56.8	-47.5	-57.4	-30.4
前回比	-16.6	-19.5	-10.9	-14.3

■全産業の業況

業況	12月末時点	9月末時点
良化	3.5	6.6
悪化	76.9	63.4
DI値	-73.4	-56.8
前回比	-16.6	-6.0

■12月末時点から見た 全産業の業況3か月先の見通し

業況3か月先見通し	
良化	3.5
悪化	76.9
DI値	-73.4

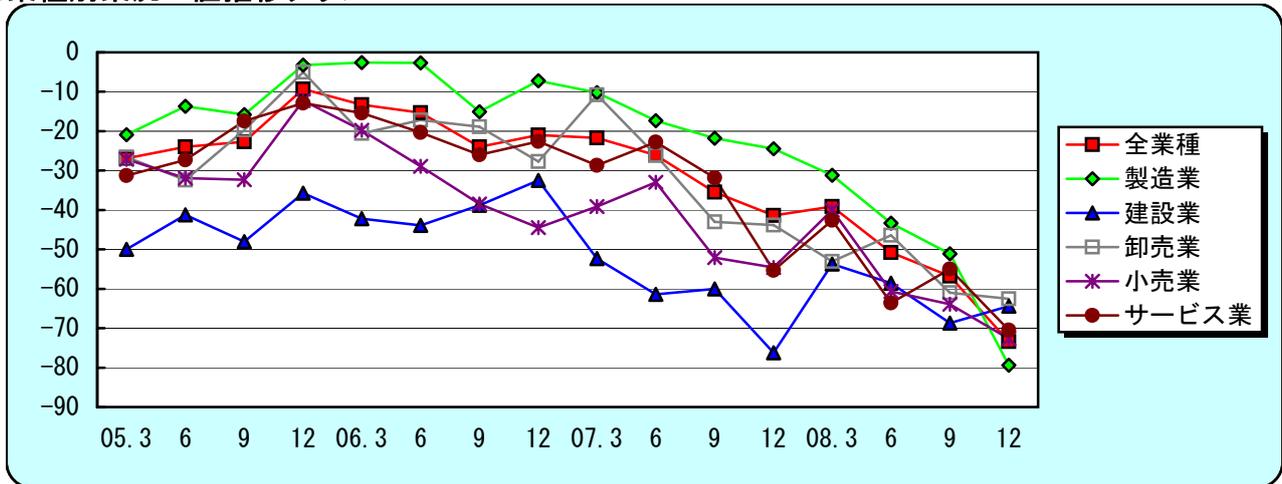
■製造業の業況

業況	12月末時点	9月末時点
良化	2.5	7.5
悪化	81.9	58.6
DI値	-79.4	-51.1
前回比	-28.3	-7.8

■非製造業の業況

業況	12月末時点	9月末時点
良化	4.4	5.8
悪化	72.8	67.6
DI値	-68.4	-61.8
前回比	-6.6	-4.5

■業種別業況DI値推移グラフ



<製造業>

業況DI値	
今回	-79.4
先行き	-72.1
前回比	-28.3

対象企業	354
回答企業	204

業況・売上・採算・資金繰りはいずれも悪化を示した。

業種別にみると「食料品」の業況は改善を示した。「窯業・土石」「鉄鋼・非鉄」「精密機器」は大幅悪化を示し、「酒造」「織物」「金属」「一般機械」「電気機器」「輸送用機器」「プラスチック」は悪化を示した。「ニット」「縫製」「印刷」はわずかに悪化を示した。

3か月先見通しの業況・採算はわずかに改善を見通し、売上・資金繰りは横ばいを見通した。業種別にみると「ニット」の業況は悪化、「一般機械」はわずかに悪化傾向を見通している。「窯業・土石」「鉄鋼・非鉄」「プラスチック」は改善を見通し、「織物」「縫製」「印刷」「金属」「電気機器」はわずかに改善傾向を見通している。「食料品」「酒造」「木材・木製品」「輸送用機器」は横ばいを見通している。

受注減少と先行きの見通しが立たないとの声が多かった。また、「一般機械」「電気機器」からは過剰人員問題についての声もあった。

自由意見

製造業

- 3か月先を概ね良化とみておりますが、業種的に季節的要因の占める部分が大きい。
マクロ的には不況による消費意欲の低下が懸念される。 【食料品】
- 百年に1度の大恐慌、やりがいのある環境、思いっきり会社を変化させ乗りきりたいと思います。
先を憂えず過去にとらわれず進化・進化です。 【食料品】
- 生産燃料の重油は、価格が値下げとなっているが、原料の大豆、小麦は価格が下がっていない。
また、ペットボトル、段ボール、紙、その他、諸々の資材は全て値上げされ、粗利益は減少している。 【食料品】
- 自社田による酒米栽培(14ha)が軌動に乗り、安全安心、情報公開により我が社の酒はフォローの風を受けている。 【酒造】
- デパートの客足低下が影響してメーカーも売上が減少し、今後の生産見通しが立たず、春以降の向上を祈る。 【縫製】
- 前年に比べ生産高69%、今年も悪化です。 【木材・木製品】
- 先の仕事の状況が見えず困っております。 【木材・木製品】
- 緊急保証制度が始まったが、中小企業側の立場に立ったものとなっていない。 【木材・木製品】
- 20~30%のパイが縮小すると思われるが、予測不能。 【印刷】
- 入札制度により地域外の業者の落札が多くなり、与信管理に頭を痛めている。公共工事の大幅な減少に加え、民間工事の激減が心配され、すべての面で悪化が予想される。 【窯業・土石】
- 受注減の為、12月下旬から1月にかけて12日間休み。1月は週3~4日稼働でも受注不足である。 【鉄鋼・非鉄】
- ほとんどの取引会社からの受注が減少した。忙しいのは、介護、医療器の分野だが、生産量が少ない。 【金属】
- 自動車関連業で急激に業況が悪化しており、現在のところ見通しがわかりません。 【金属】
- 現状、受注は前年比40%減、3ヶ月先行きは前年比半減の見込みである。人員は40%過剰である。 【一般機械】
- 造船・重電関係は変動が少ないが、自動車関連の景気急落により影響大。 【一般機械】
- この景気、なんとかして欲しい！ 【一般機械】
- アルミ材料は1月より値下げとなりました。 【一般機械】
- 益々悪化が予想されます。 【一般機械】
- 先行き大変不安な状況です。県発注工事は、使用資材についても県内業者を利用してほしい。 【電気機器】

○先行きが全く不透明である。予定の話は出て居るが、その時になって見ないとなんとも言えないのが現状である。	【電気機器】
○50%以上の減産。	【電気機器】
○H21年1月以降の受注見通しはほとんど無く、今後中小企業の倒産が大量に発生し、平成の大恐慌に入って行くと考えます。	【電気機器】
○この現況がどこまで沈むのか、いつまで続くのか先行き不明です。当面過剰人員をどうすれば良いのが問題です。	【電気機器】
○先行きは3か月後には、悪化するのではないかと懸念しております。	【輸送用機器】
○昨年11月頃から受注が20%減少している。	【精密機器】
○11月より大幅な下降となって来たが、1月～2月の見通しは更に悪化する。	【プラスチック】

<建設業>

業況DI値	
今回	-64.4
先行き	-82.2
前回比	4.3

対象企業	72
回答企業	45

業況・資金繰りは横ばいを示し、売上・採算はわずかに改善傾向を示した。

業種別にみると「土木」「建築」の業況は横ばいを示した。

3か月先見通しの業況・売上・採算・資金繰りはいずれも悪化傾向を見通している。業種別にみると「土木」の採算はわずかに改善傾向を見通しているが、業況・売上・資金繰りはいずれも悪化傾向を見通している。「建築」の業況・売上・採算・資金繰りはいずれも悪化傾向を見通している。

業績を下方修正するとの声もあったが、自分達が地域の為に何が出来るか実行したいという前向きな企業の声もあった。

自由意見

建設業

○国、県が我々の為に何をするかでなく、私達が地域の為に何が出来るか実行すること。	【建築】
○下期は下方修正。	【建築】

<卸売業>

業況DI値	
今回	-62.5
先行き	-67.8
前回比	-1.5

対象企業	106
回答企業	56

業況・売上・採算・資金繰りはすべて横ばいを示した。

業種別にみると「青果物」「鮮魚」の業況は改善傾向を示したが、「衣服」「飲食料」は悪化傾向を示し、「機械器具」「建築材料」は横ばいを示した。

3か月先見通しの業況・売上・採算・資金繰りのいずれもわずかに悪化を見通している。業種別にみると「青果物」の業況は改善傾向、「衣服」「機械器具」「建築材料」はわずかに悪化を見通している。

売上の急速な減少、今までにない厳しい月であった、消費需要の変化を懸念する等の声があった。

自由意見

卸売業

○11月より急速に売上が減少に転じました。これからも悪化すると思われます。	【衣服】
○今までにない厳しい12月です。	【衣服】
○経済の動向によって、消費需要が冷え込むのを心配している。	【青果物】
○住宅着工数減少にともなう受注減が目立ってきています。また、輸入材の入荷が少なく国産材にシフトしていますが、動きがありません。	【建築材料】
○高い仕入の在庫処理が大変です。	【その他】

<小売業>

業況DI値	
今回	-72.7
先行き	-70.5
前回比	-8.8

業況・売上・採算・資金繰りはいずれもわずかに悪化を示した。

業種別にみると「家具・建具」「大規模店」の業況は改善傾向を示し、「中小スーパー」「衣料」「家電品」は悪化傾向を示した。

3か月先見通しは、業況・売上・採算・資金繰りのいずれも横ばいを見通して

対象企業	161
回答企業	88

いる。業種別にみると「飲食料」「家電品」「自動車販売」の業況はわずかに改善を見通し、「衣料」「大規模店」は横ばいを見通している。「中小スーパー」「家具・建具」は悪化を見通している。

消費マインドの冷え込みと生活防衛意識の高まりで過去最低の売上であったとの声があった。

自由意見

小売業

- 制度融資借入申込の際の審査が厳しく借入できなかった。現状厳しく不安がいっぱいである。【中小スーパー】
- 先行き不安で見えない。指針を示して欲しい。【衣料】
- 酒販業は早いスピードで売上が減少してます。新しい方向づけにつとめて居り、少しずつは見えて来た様な気もしますが、先行きがわかりません。【飲食料】
- 不況感が強くなった。【飲食料】
- 10月より急激に売上が減少し、消耗品の交換(ランプ等)も昨年の1/3位に低下している。【家電品】
- 売上げの悪化により、借入金返済のメドがつかない。何とかしたいのだがどうしたらよいものか…。【家電品】
- 売上が低下し、景気が悪くなるにつれ増々低下する。【自動車販売】
- 景況感が非常に悪く、個人消費は生活防衛意識の高まりから、衣料品等が特に影響を受けている。【大規模店】
- 12月としては、昨年の過去最低売上げを更に大きく下げている。【その他】

<サービス業>

業況DI値	
今回	-70.5
先行き	-75.5
前回比	-8.8

対象企業	107
回答企業	61

業況・売上・採算はわずかに悪化を示し、資金繰りは横ばいを示した。業種別にみると「情報サービス」の業況はわずかに改善を示したが、「観光旅館」「タクシー」「運送」「自動車整備」は悪化傾向を示した。

3か月先見通しの業況・採算・資金繰りはいずれも横ばいを見通し、売上はわずかに悪化を見通している。業種別にみると「タクシー」の業況は改善を見通しているが、「観光旅館」「運送」「自動車整備」「情報サービス」はわずかに悪化を見通している。

「タクシー」は、夜間の運行が低迷している。「旅館・ホテル」からは、売上減少、経営困難、先行きは最悪となる等の声があった。

自由意見

サービス業

- 来年は最悪になると思います。倒産かも？【旅館・ホテル】
- 9月以降、目にみえて売上が減少している。固定費が高い業種なので、何とも経営がきつい。【旅館・ホテル】
- 現在、重油単価等が低くなってきたことから、なんとか資金繰りが成り立っている。【旅館・ホテル】
- 9月以降の夜間の運行は近年になく低迷してます。12月に入り期待はしたもののあまり結果が出ず、市場の外的要因が大きく影響している様子です。(他社も)【タクシー】
- 先の見通しが悪い。【その他】